

家族と親族

(かぞくとしんぞく)



祝言の様子
(染谷京子氏所蔵写真)

写真は、野田市内での結婚式の様子です。結婚式は人生において最も重要な儀礼(ぎれい)の一つであることはもちろんですが、社会的にも重要な意味をもっています。結婚によって家と家が親戚関係となるのです。伝統的な社会においては、家を中心として社会生活が営まれてきました。

野田は、利根川と江戸川に挟まれた地域という特殊な地理的条件があります。今日のように堤防が整備される以前は、しばしば川が氾濫(はんらん)し、大きな被害を出しました。大正や昭和の初期に生まれた人達は、川が氾濫し、洪水となった時に、米や家財道具などを少しでも高いところへと運んだことを記憶していることでしょう。米を土手の上まで運ぶ作業は決して一人でできる作業ではありません。地域住民や家族が力を合わせなければできない作業です。このようなことから、地縁的な繋がりを深いものにし、また、家族の繋がりも強いものにしていったのかもしれない。

同じ地域に居住し、同じ姓で血縁関係のある家の集まりを、「イッカ」または「イッケ」といいました。共同墓地ができる前は、「イッカ」は同じ場所を墓地としていました。近い親戚関係として、冠婚葬祭をともしに行うことはもちろんですが、お互いの家を「行ったり来たり」しました。「行ったり来たり」とは、春・秋の彼岸とお盆の時に、仏壇に上げるものをお互いに持っていき、先祖のお参りをするをいいます。普通は、仏壇に上げるお金と台にするお菓子などを持っていきます。もし、ある親戚の家に1000円の現金と1000円相当の茶菓子等を台として持っていけば、その親戚の家から自分の家にも同様に1000円の現金と茶菓子と同じ程度の台を持ってくることになるのです。同じ価値のものをやり取りするわけですから、一見、非合理で無意味なことのようには思えるかもしれませんが、実はこの「交換」が人間の社会的繋がりを作る重要な役割を果たしてきたのです。

最近では、「お互いにする」といって、「行ったり来たり」の回数を減らしたり、持参するものも略式化する傾向がみられますが、この「行ったり来たり」は社会生活にとって大切な慣習といえるでしょう。

《詳しくは…》

* 『野田市民俗調査報告書』各号 野田市

共同墓地（小山）



小山地区のW氏を中心とする本家・分家の関係と屋号

